

日本語学習者のビリーフス

—自律的学習に関わるビリーフスに焦点を当てて—

お茶の水女子大学人間文化研究科

比較文化学専攻 齋藤ひろみ

0、はじめに

日本語教育においても自律的学習能力を養成することの重要性が主張されるようになってきたが、自律的学習能力を養成する上で、学習者自身もつ言語学習に対する確信、つまりビリーフスが非常に大きな障壁となる場合がある (Dickinson1987, Wenden1991)。そこで、自律的学習能力養成を目指した支援を行う前段階として、学習者のビリーフスを把握しておく必要がある。

ビリーフスは、言語学習者としての経験や文化的背景の影響を受けていると言われており (Horwitz1987)、レベル、滞日期間、これまで受けてきた外国語教育、国籍、民族、文化などによりビリーフスが異なるであろうと推測できる。

本研究では、日本語学校で学習する日本語学習者を対象に自律的学習に関わるビリーフスについて調査を行い、学習者のビリーフスの傾向、レベル及び滞日期間によるビリーフスの違いを探っていく。

1、調査方法

(1) 目的

日本語学習者の自律的学習に関わるビリーフスを調査し、ビリーフスにどのような傾向があるのか、その傾向にレベル及び滞日期間による違いがあるのかを明らかにする。

(2) 調査対象者

日本語学校3校で学習する初級から上級までの学習者51名

初級7名 中級25名 上級19名

国籍 カナダ1 イギリス1 ミャンマー1 台湾2 中国7 韓国39

(3) 調査方法

本研究では、ビリーフスを明らかにする方法として質問紙による調査を実施することにした。そこで、Horwitz(1987)のBALLIの作成方法に倣い調査紙を作成し、51名の日本語学習者を対象に調査を実施した。

調査紙は、自律的学習に関わる7つの要素に関連する項目を30設定し、

「強く反対」から「強く賛成」までの5段階リカート式とし、その回答の数値を自律度として扱う。但し*印の項目は1→5を5→1と読みかえる。

<自律的学習に関わる7つの要素>

- a)学習目的 b)学習方法 c)学習素材 d)評価・セルフモニター
e)教師への依存 f)気持ちのコントロール g)学習環境の捉え方

(4)結果の分析方法

「全体の傾向」と「レベル・滞日期间による違い」という二つの観点から分析した。全体の傾向は、各項目の平均点から自律度の高い項目と低い項目を抜き出し、学習者の自律的学習にかかわるビリーフスの傾向を探った。レベル・滞日期间による違いは、同一の日本語学校で学習する初級7名、中級12名上級11名の結果を対象に、項目毎に平均を比較分析した。

3、結果と考察

(1)全体の傾向

4.0以上を自律度が高い、2.5未満を自立度が低いと解釈すると、自律的学習に関わるビリーフスには次のような傾向があると言えそうである。

学習のプロセスに関して責任を持って学習を管理することをよし(項目18, 22, 27)としながらも、教師への依存が強く具体的な学習方法に関しては教師や学校に頼っている(項目1, 16, 19, 23)。また、学校での教科書を使った学習でなくても身の回りの素材や社会的文化的出来事を通して学習することができると考えている(項目11, 13, 17)。全体的な評価はする(項目4)が個々の産出活動ではセルフモニターはできない(項目9, 20)とし、学習環境や日本語に接する時間や必要性を学習の成否を決定づける条件と捉えている(項目7, 10, 26)。

(2)レベル・滞日期间による違い

分析対象とした30名(初級7名、中級12名、上級11名)は、同じ学校で学ぶ学習者であり、基本的に初級レベルで入学し、6カ月毎にレベルの上のクラスに移行することになっている。そのため、レベル別であると同時に、滞日期间の違いによるグループ分けにもなっている。カリキュラムは精読、速読、文法、聴解、漢字、日本語能力検定試験向けの授業から構成されている。

初級と上級の自律度に0.5以上の違いがあった場合、初級から上級にかけての自律度の変化と解釈する。

初級、中級、上級のビリーフス全体の自律度の平均にはほとんど差がないが、項目毎に見ると初級から上級へ次のような変化が生じると言えそうである。

自律的方向への変化は、教師への依存が弱まり（項目16,19）、徐々にセルフモニターができるようになる（項目9,20）。目的を持つことの重要性を感じ（項目2）、学習環境の影響を過大視しなくなる（項目7,10）。また、学習のために多様な素材が利用できるようになる（項目13）一方非自律的方向への変化は、計画を立てた学習の有効性に疑問を持ち始め（項目22）、努力と効率とは異なると考えるようになり（項目5）、より効果的な学習方法や学習活動を学校に求めるようになる（項目29）。

4、おわりに

この調査により、日本語学習者が自分で学習を管理して学習しようと考えながら、実際の学習では教師や学校への依存が強く、学習を取り巻く環境が学習の成否を決定づける要因となると考えているという傾向が明らかになった。また、滞り期間が長くなりレベルが上がるに従いビリーフスに変化が生じること、またそれが特定のビリーフスに顕著であることがわかった。

また、学習者の感想から、自律的学習のビリーフスについて調査することによって調査目的以外にも次のような効果が期待できることがわかった。

- ・学習者に自分の学習について意識させることができる。
- ・学習者が日本語の学習について考えていることや、学校や教師に求めていることを教師が把握する機会が得られる。

今後自律的学習を支援する上では、ここで明らかになった学習者のビリーフスを考慮して学習者により相応しい支援の方法を選択していくことが求められる。また、支援の一環として、ビリーフスについて意識化させる活動を組み込んでいくことも望まれる。

<参考文献>

- Horwitz, E. (1987) "Surveying Student Beliefs About Language Learning"
In Rubin & Wenden (ed.) *Learner Strategies in Language Learning*
Prentice Hall International
- Rubin, J. (1987) "Learning Strategies: Theoretical Assumptions, Research History." In Rubin & Wenden (ed.)
- Wenden, A. (1987) "How to be a Successful Language Learner: Insights and prescriptions from L2 Learners." In Rubin & Wenden (ed.)
(1991) *Learner Strategies for Learner Autonomy*. Prentice-Hall

調査紙「自律的学習に携わるヒリーフス」(BALAI)の調査結果

*印: 回答を1→5を5→1と読みかえ自律度とした

| 質問項目 | 全体 5.1 | 初級 7 | 中級 12 | 上級 11 |
|---|-----------|---------|----------|----------|
| 1, 学習者は先生のいう通り勉強すればいい* | 2.3 | 2.2 | 2.0 | 2.5 |
| 2, 目的があるかないかと、日本語の上達の間には関係がない* | 3.9 | 2.8 | 3.9 | 4.1 |
| 3, いろいろな学習方法を試す人は、日本語が上手になる | 3.4 | 4.1 | 3.3 | 3.0 |
| 4, 自分の日本語の問題点を考えない人は進歩しない | 4.4 | 4.4 | 4.5 | 4.6 |
| 5, 努力しても、日本語が上手になるかどうかはわからない* | 3.9 | 4.7 | 4.1 | 3.6 |
| 6, 間違ったから学ぶ人は、日本語が上達する | 3.3 | 3.1 | 3.9 | 2.8 |
| 7, 日本語に接する時間が長ければ、自然に日本語が上手になる* | 2.3 | 1.4 | 2.7 | 2.5 |
| 8, 自分にあった学習方法を自分で見つけるべきだ | 4.0 | 4.4 | 3.7 | 4.3 |
| 9, 日本語の間違った先生が直すべきだ* | 2.0 | 1.1 | 2.3 | 2.2 |
| 10, 学習環境が悪ければ日本語が上手にならない* | 2.4 | 1.8 | 2.6 | 2.5 |
| 11, 日本の文化や社会を理解しても、日本語の学習の役に立たない* | 4.2 | 4.0 | 3.7 | 4.4 |
| 12, どのくらい上達したかわかればはっきりしていれば、日本語の上達は速い | 3.7 | 3.4 | 3.9 | 3.7 |
| 13, 教科書以外のものは、日本語の学習の役に立たない* | 4.3 | 3.8 | 4.1 | 4.7 |
| 14, 積極的に話しても、日本語が上手になるとは限らない* | 4.2 | 4.5 | 4.4 | 4.5 |
| 15, 自分の感情をコントロールできないと、学習がうまくいかない | 3.7 | 3.8 | 3.5 | 3.9 |
| 16, 先生に教えてもらわないと、日本語は上達しない* | 2.5 | 1.8 | 1.7 | 3.0 |
| 17, 学校以外の所では、日本語の学習は難しい* | 4.3 | 4.8 | 4.2 | 4.6 |
| 18, 学習していることを意識することと、日本語の進歩とは関係がない* | 4.1 | 4.2 | 4.3 | 4.0 |
| 19, 先生の教え方が悪いと、日本語が上手にならない* | 2.1 | 1.4 | 2.2 | 2.1 |
| 20, 間違えは自分でわからないし、なかなか直せない* | 2.5 | 1.7 | 2.6 | 2.7 |
| 21, 学習意欲が高ければ学校で勉強しなくても日本語ができるようになる | 2.9 | 2.5 | 3.3 | 2.8 |
| 22, 計画を立てて勉強しないと、日本語の上達は遅い | 4.0 | 4.5 | 4.2 | 3.9 |
| 23, 先生は学習しなければならぬことを、全て教えるべきだ* | 2.5 | 2.3 | 2.3 | 2.6 |
| 24, 自分の日本語の進歩について考えても、日本語が上達するかどうかと関係がない* | 3.8 | 3.7 | 3.7 | 4.0 |
| 25, 日本語を使う活動なら、どんな活動でも日本語の学習の役に立つ | 3.8 | 4.5 | 3.6 | 3.6 |
| 26, 日本語を使う必要がない人は、日本語の上達は遅い* | 1.9 | 1.8 | 2.0 | 1.9 |
| 27, 学習がうまく行くかどうかについて、学習者は責任を持つべきだ | 4.2 | 4.4 | 4.1 | 4.5 |
| 28, 学習している時の気持ちと学習がうまくいくかどうかとは関係がある | 2.8 | 2.0 | 2.0 | 2.0 |
| 29, 日本にいれば、学校で勉強しなくても日本語ができるようになる | 2.7 | 3.7 | 3.3 | 2.0 |
| 30, 間違いを直されると、直された人は自信をなくす* | 4.2 | 4.4 | 4.1 | 5.0 |
| | 3.3 | 3.2 | 3.3 | 3.4 |

初級→上級 自律度が0.5以上高くなった

低くなった